

令和4年10月28日

日立理科クラブ通信



No. 181

日立理科クラブ

第22回 青少年のための科学の祭典・日立大会

10月23日(日)、日立シビックセンターマーブルホール/新都市広場/科学館で行われた、科学の祭典・日立大会の内容を、日立理科クラブ出展ブースを中心に紹介します。

さわやかな秋晴れの中、日立一高付属中学校・科学部の生徒の開会宣言を合図に、3年ぶりの科学の祭典が始まりました。第22回の大会では、初出展のブースが多くあり、どのブースも熱気を帯びた子どもたちの活動が展開されていました。コロナ禍で来場者数を心配していましたが、予想を超える3,500名以上が来場し、子どもたちは、楽しそうな笑顔や真剣な眼差しで、作品作りや出展者のお話に耳を傾けていました。



開会式

日立理科クラブは、「空気・水のふしぎ」と「科学の楽しさ一日体験」の2つの出展ブースです。



「空気・水のふしぎ」では、学校での授業支援の教材・教具を一堂に集約し、実験の仕方とコツを実際に指導し、来場者に実験の不思議さを体験してもらうことが中心です。○空気の重さ測定 ○理科クラブ開発の真空引き注射器での減圧・真空実験 ○減圧沸騰 ○加圧沸騰 等の実験が展開されていました。親子できた家族が、不思議そうに実験にチャレンジしている光景がたくさん見られ、空気・水のふしぎを再確認していました。

「科学の楽しさ一日体験」では、教材コーナーと自由研究コーナーの2つのエリアを設置しました。教材コーナーでは、理数アカデミーの授業で

使用している、理科教材、算数・数学教材を展示しました。これらは全て、日立理科クラブのオリジナルの手作りの教材・教具です。理数アカデミーの講師陣が、来場者にそれらの使い方や仕組み等を説明するなど、楽しいやり取りが行われていました。自由研究コーナーでは、今年度、11名の中学生が取り組んだ10テーマの研究内容が展示されています。理数アカデミーは、市内の小中学生を中心に募集していますが、2017年度から、東京大学との連携「ジュニアドクター育成塾」を併設し、市外及び県外からも受講生が多く参加しています。遠隔地の受講生は、インターネットによるリモート参加で活動しています。



新都市広場のブースが、今までにない盛り上がりを見せていました。アメリカ映画のヒット作品「バックトゥザフューチャー」に登場した車「デロリアン」が4台、広場に並びました。車の圧巻の姿に子どもよりも大人の方たちが興味・関心を示していました。また、火薬式エンジンを装填して電気着火で打ち上げるモデルロケットでは、子どもたちが製作したロケットを広場で打ち上げました。上空かなりの高さまでロケットは打ち上がり、その迫力に思わず子どもたちは、「うわー」と歓声を上げ、落下傘をつけたロケットが落ちる地点に走り出すほどです。竹園高等学校のSDGsカルタ(英語で読み、アルファベットの絵札を取る)や、ドローンサッカーゲームなど、初出展ブースにも多くの子どもたちが集まっていました。列ができ待ち時間が多くなったブースの1つは、「化石発掘」です。化石の原石(栃木県塩原産の泥岩)をハンマーとタガネで割って化石を見つける作業に、多くの子どもたちが集まり、植物の葉の化石が中心でしたが、かなりの頻度で見つけることができました。3年ぶりの科学の祭典、子どもたちの好奇心と興味・関心、一日の中で存分に味わうことができたのではないのでしょうか。

